

哀情報による自己管理型 カルテモデルの検討

An Approach for Self-Management Type Karte Model in
Negative Feelings Cloud Environment

○石川 希人† 野地 保‡ 黒瀬 晋* 荻野 正**

†東海大学大学院工学研究科
‡東海大学情報通信学部
* 北陸日本電気ソフトウェア㈱第一ソリューション事業部
** 三菱電機インフォメーションテクノロジー(株)

東海大学野地研究室

内容

- 1.はじめに
- 2.背景
- 3.提案システムの概要
- 4.システムの機能要件
- 5.考察
- 6.おわりに

1. はじめに 研究の目的

- (1) 医学的専門知識のない患者にも病気について、早く、わかりやすい正確な情報を提供する
- (2) 医師、患者間のコミュニケーション不足の解消
- (3) 大震災発生時における診療情報の保護

2. 背景

インフォームドコンセントとは

- ・重要性、必要性、難しさの認識
- ・「説明」、「承諾」の二大要素
- ・医師、患者間のコミュニケーションの重要性

哀情報とは

↓ 哀情報の必要性

哀情報 (NF)	自動検知 アラブセンサ網	手動検知 手動アラブ網
明白哀情報 (ENF)	脳波、バイオ、血圧、肌、匂い、 脈拍、音声、ストレス、体重、etc	
暗黙哀情報 (INF)	電力計、ガスメータ、湿度計、圧 力、人感、赤外線、etc	押鈴、携帯電話通知、 外部問い合わせ

医療情報共有化の機能仕様目標の設定

- (1)リアルタイムバックアップは、物理的に異なる地域のクラウドで
- (2)動作環境は、無停電ノンストップ環境
- (3)患者情報を患者自身が携帯できる患者プライベートクラウド環境の構築



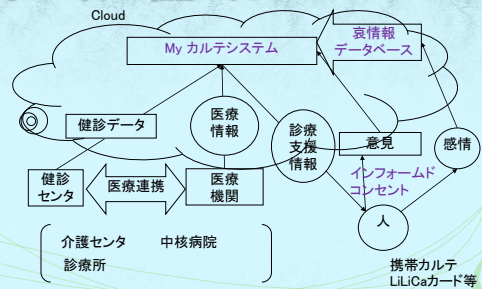
Myカルテシステムの必要性

Myカルテシステムとは

- ・自己管理型カルテシステム
- ・クラウド型カルテシステム

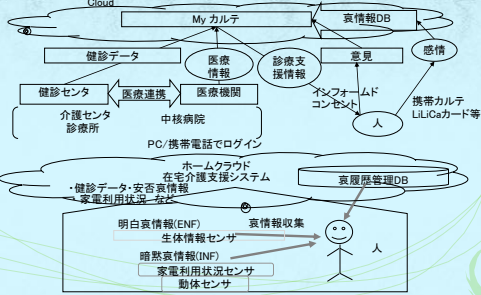
3. 提案システムの概要

本システムのプロットモデル



4. システムの機能要件

システム要件



Myカルテ情報の構成

	←個人管理		病院管理→
↑電子カルテ↓ Myカルテ↓	投薬情報	紹介情報	診療情報
	感情情報	通院情報	持病情報

5. 考察

期待効果1: コミュニケーション不足の解消

- ◆患者と医師が共通の情報を管理できる
- ◆医師は患者の考えを確認できる
- ◆患者は自分が受けている治療を確認できる
- ◆Myカルテには感情情報(哀情報)が組み込まれ、患者の考えを把握しやすい

期待効果2: インフォームドコンセントの向上

- ◆医師、患者の双方はいつでもアクセス可能である
- ◆診療時間外にもお互いの情報を伝え合うことができる
- ◆患者は治療に対し、理解、納得、同意したうえで治療に参加できる

6. おわりに

クラウド上で医療情報を共有し、患者の治療選択のサポートが可能になる

課題

- ◆感情情報、生体情報の収集範囲拡大
- ◆非接触型哀情報センサの検討
- ◆患者情報の保水性検討
- ◆ユーザーインタフェースの向上

御清聴ありがとうございました